

# 趣



# 味

# 謳



# 歌

私たちが本気で楽しめる趣味を選ぶとき、直感でワクワク心躍るかどうかが、その瞬間の「ときめき」が大切です。また、「趣味は人生の幸福度を上げる」とも言われています。目の前のことに集中して、夢中で趣味を楽しむことに、人生の幸せの秘訣があるようです。今回は大好きな趣味をとおして、80歳を超えても元気に第二の人生を謳歌するお二人をご紹介します。



福岡市視覚障害者福祉協会  
古賀 勉(85歳)  
趣味：コーラス

セカンドライフは

楽しかばい!!



福岡市肢体障がい者福祉協会  
山田 隆義(81歳)  
趣味：パークゴルフ



**古賀さんがコーラスをはじめられたきっかけを教えてください。**

私が小学五年生の時、通っていた学校で混声合唱団が編成されました。合唱団のメンバーとして先生から指名されたのがコーラスをはじめたきっかけでした。私は、40歳で完全に視力を失い、それを転機に、当時働いていた東京から帰福し、国立福岡視力障害センターに4年間通い鍼灸師の資格を取得して鍼灸院を開院しました。

**混声合唱団「グリーンハーモニー」が誕生した経緯を教えてください。**

1980年に福岡市盲人会に入りました。当時、文化部がありました。が、コーラスのような声を出すサークルはありませんでした。そのため会報を通して呼びかけたところ、コーラスではなくカラオケならと20名程が集まり、「カラオケ同好会」が立ちあがったのです。これが母体となり、1985年コーラスのサークルが誕生しました。1997年には福岡合唱協会の支援を受け、混声合唱団「グリーンハーモニー」が誕生しました。現在、視覚障がい者を主体とするメンバー21名が所属しています。2000年には念願の福岡県合唱連盟福岡支部に加盟できたことで、毎年、年末にアクロス福岡などで行われる第九の合唱に参加できるようにになりました。当時はドイツ

語で歌える人でオーディションを受けて私も約20年間出演しました。そして、2003年にはグリーンハーモニー独自の演奏会を開催する事もできました。また、毎年、合唱連盟の合唱祭や福視協の文化祭のステージで演奏していました。

**普段、どのような練習をされていますか？**

お二人の先生に、各パートを歌った録音CDを作っていた頂き、それを聴いて練習しています。点字楽譜は大変難しく、実は私を含めて読める人は当団には一人もいないんですよ。(笑)

**古賀さんにとってコーラスとは？**

私がコーラスをはじめて、気づけば65年になりました。そのうち混声合唱団グリーンハーモニーでの演奏は36年になります。お腹を使って大きな声を出すことで、80歳を超えた私が元気でいられるのもこのおかげだと思います。一言で表現すると、コーラスは今や私の生命を支えてくれる大切な「命」ではないでしょうか。





パークゴルフは北海道発祥のニュースポーツで、「公園でおこなうゴルフ」ということで「パークゴルフ」と名付けられました。天然芝のコースを、クラブ1本でホールを打ち、カップインするまでの打数を競い合いながら楽しく遊べるスポーツです。

**山田さんがパークゴルフをはじめられたきっかけを教えてください。**

私がパークゴルフをはじめたきっかけは、私の友人が勤務する施設のパークゴルフ教室に参加したことでした。その時にパークゴルフの楽しさや面白さに魅了され5年目を迎えました。現在は、コロナ感染防止対策を講じながら、肢体協のメンバー5名、15名程が集い、週2回、博多区のパークゴルフ場で練習を行っています。

**パークゴルフの魅力とは何ですか？**

パークゴルフは一般のゴルフと比べるとほぼ同じで、18ホールワンラウンドでプレーします。一般のゴルフは、ドライバー、アイアン、パターなど距離によってクラブを使い分けますが、パークゴルフの場合、スタートの1打目からカップインするまで1本の専用クラブだけを使いプレーするため、上手にクラブを使い少ない打数ですることが一番の醍醐味かと思えます。また、各コースともグリーンまでの距離も50メートル前後であるため、私のように身体に障がいのある人にとってもコースを歩くことで「リハビリ」にもなるため、健康を保つ秘訣にもなっています。

**コロナ禍で色々と影響があったかと思えますが？**

昨年は、「山田杯」という大会を

開催することができましたが、今年には新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大会開催の目途は立っていません。メンバーも健康維持のため、毎週2回の練習には顔を出して、お互いの近況を確認し合います。一日も早いコロナの収束を願い、以前のように皆さんと笑顔で大会が開催できる日を楽しみにしています。

**山田さんにとってパークゴルフとは？**

私も加齢とともに年々筋力が低下し、歩くことが苦痛になってきました。しかし、パークゴルフをやりはじめると同じ障がいのある友人たちと会話しながら、やわらかい芝の上をゆっくり歩きゲームを楽しむことで、毎日の生活にも活気が出ました。これからも私自身を勇気づけてくれる最良の趣味として、パークゴルフを楽しんでいきたいと思えます。

